

- 障害特性に応じてチームを編成し、野菜生産から漬物製造・販売までを一貫して行うことで、通年で障害者の作業を安定的に創出。地域における先導性・モデル性の高い農福連携の取組を行っている。

基本情報

- 所在地：北海道月形町
- 団体名：特定非営利活動法人
サトニクラス
- 選定表彰：「わが村は美しく－北海道」
第9回コンクール大賞
(主催：国土交通省北海道開発局)
- 主力商品：漬物、味噌、米麹、乾燥野菜



取組の概要

- 就労継続支援A型事業所「サトニクラス酵房」を運営。知的・精神・身体障害を持つ7名の利用者が、約1haの農地及び加工場で、野菜生産や漬物製造等を通年で行うほか、月形町内外の農家7戸に施設外就労し、水田の除草や野菜の収穫等に従事。
- 職業指導員の見立てにより、障害特性に応じて1組2～3人のチームを編成。また、漬物製造工程を細分化し、利用者を割当て。
- 農林水産省の交付金を活用し、乾燥野菜の開発、農業者が必要とする労働力の調査、障害福祉の知見を有する農作業指導者の育成など、取組拡大の努力を継続。



農作業の様子



漬物の製造

体制図

特定非営利活動法人サトニクラス

設置・運営

設置・運営

就労継続支援A型事業所
サトニクラス酵房

出荷

花と野菜の直売所
花の里月形

出荷

農園

加工場

施設外就労

出荷

地元・都市部の小売店

代表者個人の農園を含
む月形町内外の農家

取組の成果

- チーム作業により、収穫適期の野菜の見落としが防止されるなど、作業の正確性が向上し、職員による事後確認ややり直し作業が減少。
- 漬物製造工程の細分化により、生産性が向上。製造量は、開始当初の200パックから2,000パック（令和元年度）へと10倍に増加。
- 令和元年には、農福連携の取組が先導性・モデル性の高い活動と評価され、北海道開発局主催の「わが村は美しく－北海道」運動第9回コンクールにおいて大賞を受賞。

所在地 ▶ 北海道樺戸郡月形町字当別原野420-9

連絡先 ▶ TEL:0126-35-1235 E-mail:npo@satoniclass.com

ウェブサイト ▶ <https://www.satoniclass.com/>

【取組のプロセス】

きっかけ

里山的環境が残る月形町で、地域の福祉法人や都市住民の力を合わせたコミュニティを創り、「里に暮らす」ことを継承したいとの思いから、NPO法人を設立し、札幌市からニートを受け入れた。

平成23年

月形町内の知的障害者施設「雪の聖母園」の旧寮舎を漬物加工場として利用。

平成26年

厚生労働省の緊急雇用創出事業に採択され、3名の正規雇用を実現。

サトニクラス酢房の設置・運営を開始

- 平成26年に就労継続支援A型事業所「サトニクラス酢房」を設置し、障害者就労を開始。

平成27年

都市農村共生・対流交付金事業に採択され、農福連携の取組を本格化。

地域を巻き込んだ農福連携の取組を本格化

- 平成27年に「つぎがた農福交流推進協議会」を設立し、生活困窮者自立支援法に基づく相談機関「そらち生活サポートセンター」（月形町）と連携。
- 平成27年に花と野菜の直売所「花の里月形」を開店するとともに、乾燥野菜の商品開発や農家における労働力の需要調査を実施するなど、工賃向上のためにソフト面での研究を実施。
- 平成29年から、「月形農福連携センター」など月形町内の2団体と、農福サポーター派遣や農泊などでコラボ事業を展開。



除草作業



収穫作業



直売所の様子

令和元年

農山漁村振興交付金事業に採択され、地域連携の取組を本格化。

「わが村は美しく-北海道」第9回コンクールで大賞を受賞

- 農村景観の保全、地域における人の交流及び特産物の創出という観点から、農福連携の取組が先導性・モデル性の高い活動と評価され、北海道開発局主催の「わが村は美しく-北海道」運動第9回コンクールにおいて大賞を受賞。



令和元年「わが村は美しく-北海道」運動コンクールで大賞受賞

里の暮らしを、すべての人に…

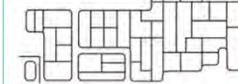
- 農業文化や食文化を中心とした、里の暮らしの豊かさを未来に繋ぐための活動に力を入れていく。地域固有の技術や生活の知恵を継承し、就労に課題を抱える様々な人材を受け入れ、共に暮らし、働くことによって、里の暮らしの持続的な発展に貢献する。

今後の
展望



特定非営利活動法人

サトニクラス



令和2年12月にホヤの加工場として「三陸ラボラトリ株式会社」を設立。それまで廃棄されていたホヤを障害者が加工することで商品化を実現。現在、ホヤ以外の加工にもチャレンジするなど、障害者の活躍の場の創出や工賃及び賃金の向上に寄与しつつ、水産業及び福祉の課題の解決に包括的に取り組んでいる。

基本情報

- 所在地：岩手県大船渡市
- 団体名：三陸ラボラトリ株式会社
- 選定表彰：
 - ・令和2年：はなまき青年商工会議所主催 SDGsアワード 未来アイディア賞
 - ・令和2年：大船渡市ビジネスプラン コンテスト 奨励賞
- 主力商品：むきホヤ、塩水ウニ、わかめ

取組の概要

- これまで廃棄されていた水産物等を買取り、障害者が加工して販売。商品のパッケージには障害のある作家の作品を利用。障害者の活躍の場を作り、工賃及び賃金の向上に取り組む。
- 雇用を1つ目のゴールと捉え、雇用を前提とした実習やトライアル雇用制度を活用してチャレンジする機会を提供。
- カキ、ウニ、ホタテ等も取り扱い、環境問題や再利用課題の解決に取り組む。



ホヤの殻むき作業



丁寧に内蔵を取る作業



通販商品の様子



店頭並ぶ商品

体制図



取組の成果

- 現在、障害者を6名雇用し、16名の施設外就労を受入。
- 他漁協の規格外品も請け負い流通量が拡大、新たな産業モデルの可能性を圏域に提示することに成功。
- 売上げは、取組当初の446万円から、4,081万円に増加。
- 障害者は地域にとって必要な労働力となっており、作業場の8～9割を障害者の労働力で支えている。
- 水福連携のモデルとして、他の水産地域からアドバイスを求められる機会が増え、新たな連携が生まれている。

所在地 ▶ 岩手県大船渡市三陸町綾里港62-1

連絡先 ▶ TEL：0198-22-5149 E-mail：yotsume0925@outlook.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.yotsume-holdings.com/>

【取組のプロセス】

平成23年

東日本大震災により養殖ホヤ産業に壊滅的被害

きっかけ

地域でのホヤ業の担い手不足が深刻化していたことを背景に、廃棄していた小さいホヤに着目。障害者が一次加工の担い手となることで商品化に成功。水福連携と産業の持続化等に取り組む。

令和2年

三陸ラボラトリ株式会社設立

東日本大震災による被害と産業の担い手不足

- 平成26年には出荷体制が整ったものの、原発事故による各国の輸入規制により、生産量の6割のホヤを廃棄。
- ホヤの廃棄分、値下がり分についての産業補償も令和3年に終了。
- 需給が不透明なため、ホヤ業の廃業が増加。地域における産業の継ぎ手、担い手不足が深刻化。



体験会・説明会の様子

令和3年

廃棄分のホヤに着目。事業化

規格外品に着目。福祉就労との連携で商品化に成功

- ホヤは規格品を300Kg水揚げするために3,000Kgの規格外品が発生していたが、それらは廃棄されていた。そのため、廃棄されていたホヤに着目し商品化に取り組む。
- ホヤの商品化のためには、一次加工で殻剥きが必要だが、この一次加工の担い手がない状況。そこで、福祉就労との連携を検討し、地域の就労継続支援B型事業所からの施設外就労で障害者が一次加工に取り組む体制を構築し規格外品の商品化を実現。併せて一次加工の担い手問題も解消し、障害者への工賃提供にも成功。



殻ホヤの出荷作業

令和4年

水福連携の取組を開始

取組の広がり

- 2年目からは、ホヤと同様に環境問題や再利用課題のあるカキ、ウニ、ホタテ、わかめ、等にもチャレンジしている。
- 水福連携のモデルとして、他の水産地域からもアドバイスを求められる機会も増え、新たな連携が生まれている。
- 障害者就業・生活支援センターとハローワークとの連携、施設外就労からのステップアップという形で、雇用も実現。



ウニ詰め作業（高度な作業）

今後の展望

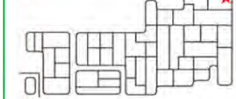
水産缶詰、クラフトビール等、新商品の開発

水福連携の推進

- 水産物の缶詰、加工品、クラフトビール等の商品開発が進行中。開発の中で、地域のデザイン企業や、デザインを扱うB型事業所との連携を進める。また、業務委託でシール貼りやアートデザイン利用等を通して更なる水福連携の推進を図る。
- 事業と人とのマッチングモデル事例として、人材育成コーディネートを行う事業体と連携し、地域の農林水産業経営体に広報を展開。



ウニ完成品



困難を抱える若者への就労支援を中心とするソーシャルファームを理念とし、農業の担い手育成事業を行う。また社会的弱者や生きづらさを抱えている若者に向けた中間的就労支援や農村留学プログラムを通じて地域コミュニティの醸成や自立支援を行っている。

基本情報

- 所在地：宮城県石巻市
- 団体名：
一般社団法人 イシノマキ・ファーム
- 選定表彰：
 - ・令和元年：第3回チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞入賞
 - ・令和2年：「新しい東北」復興・創成顕彰
- 主力商品：クラフトビール

取組の概要

- ソーシャルファームでのホップ栽培、野菜生産のほか、ビールの醸造等の活動を行っており、社会的弱者の雇用創出につなげている。
- 農業担い手センターを通じて利用者の農業就職支援も実施。
- 農福連携サポーター養成事業を実施し、持続的な障害者雇用のためのサポーターを育成。



農村留学プログラムの様子



ホップ収穫の様子



ホップ畑
(被災した荒廃農地を再生)

体制図

イシノマキ・ファーム法人本部

ソーシャルファーム
(農福連携事業)

ホップ栽培・ISHINOMAKI HOP WORKS
6次産業化事業 (社会的弱者の雇用)

農業担い手センター

取組の成果

- 就労訓練に参加する利用者が取組当初から135名に増加。
- 売上が取組当初から360万円に増加。
- 農地面積が取組当初の20aから96aに増加したほか、ハウス2棟でも栽培を開始。
- 中間的就労支援における農作業を行うことで利用者の就労意欲が向上。
- 地域農家で活動することが小規模農家の担い手不足解消につながっており、地域住民とのコミュニティが活発になることで、高齢農家の生きがいづくりにもなっている。

法人本部 ▶ 宮城県石巻市北上町女川字泉沢13番地

連絡先 ▶ TEL:0225-25-4144 E-mail : info@ishinomaki-farm.org

ウェブサイト ▶ <https://www.ishinomaki-farm.com/>

【取組のプロセス】

空き家を借りて事業準備をスタート

平成28年

きっかけ

これまでの活動を通して「農業は多様な人々に力を与えることができる」「地域住民との関わりが自信を取り戻すきっかけとなる」ことを経験する。その経験から、ソーシャルファームを理念とした農業の担い手育成事業をスタート。

地域循環型による支援事業をスタート

平成29年

地域循環型による支援事業をスタート（ソーシャルファーム草創期）

- ソーシャルファームとしてのホップ栽培、野菜の生産による就労支援、地域住民参加のコミュニティづくりを実践。
- 6次産業化の取組の一環として「ISHINOMAKI HOP WORKS」を開業。クラフトビールの醸造を開始。
- 中間的就労支援を実施。利用者が農作業を通じて就労プログラムに参加し、訓練日当を支給することで働くことに対するプラスの動機付けを行う。
- 地域農家の手伝いを行い、短期アルバイトによる就労訓練を実施。



セリ収穫作業

農業担い手センター事業、シェアハウス整備、農業就職支援を実施

平成30年

社会的弱者の自立支援を含めた農業就職支援をスタート

- 農業担い手センター、空き家を利用したシェアハウスを整備。
- 農村留学プログラムを通じて、自立生活や農業を体験。一人暮らしの練習として、一時的に地方での就農体験を行う。



サツマイモ収穫作業

農福連携サポーター育成の取組をスタート

令和2年

農福連携サポーター養成事業をスタート

- 地域農業生産者が合理的配慮のもとに適切にかつ持続的な障害者雇用に繋げることができるよう、サポーターを育成。
- 将来的には「農業版ジョブコーチ」育成につながるよう取組を継続的に実施。



地域住民との農作業風景

ISHINOMAKI HOP WORKSをスタート

令和3年

農業を通じて地域の力を活かし、誰もが共生できる社会を目指して

- あらゆる社会的弱者が、地域住民と一緒に対等の関係で働くこと、誰もが農を通じて豊かに暮らせる地域での生活をサポートしていく。
- 農業を通じた交流できる街づくり、ソーシャルファームの活動をととした地域循環型社会の構築を目指す。



収穫した野菜の加工体験

今後の展望



○「良い品 良い人 良い社会づくり」の理念のもと、障害者をはじめとする就労困難者を支援する公益ソーシャルカンパニーとしての存在価値向上を目指す。

基本情報

- 所在地：広島県三原市
- 団体名：株式会社八天堂ファーム
- 選定表彰：－
- 主力商品：
 - ・ぶどう



利用者への農作業指導風景

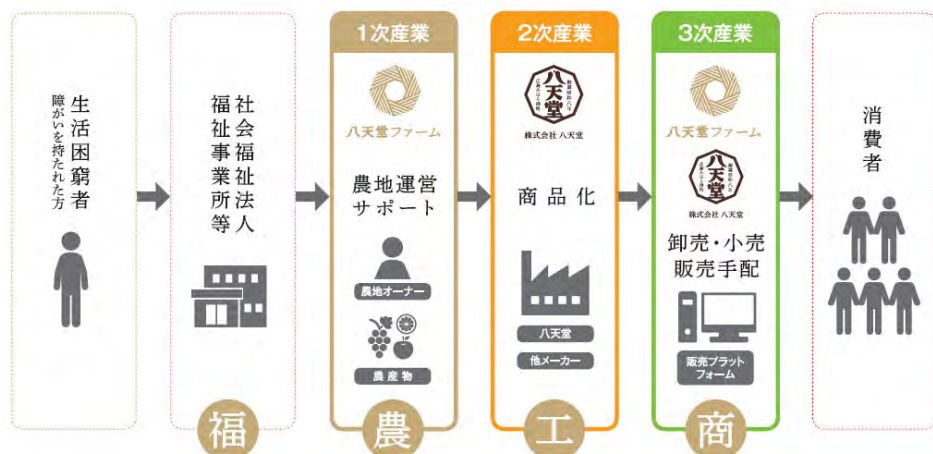


ぶどう園を荒らす猪

取組の概要

- 後継者不在となったぶどう園を受け継ぎ、社会福祉法人宗越福祉会と連携し、生活困窮者（障害者を含む）の自立支援を目的とした農福連携型就労訓練事業をスタート。現在は4名の生活困窮者（うち1名は障害者）に常時農作業を依頼。
- 就労環境の拡大を目指すため、小学校跡地を利活用し、完全雇用型のソーシャルファーム設置に向けて取り組んでいる。
- 約8,000㎡のぶどう園で農福連携によって収穫されたぶどうを令和4年7月にノウフクJASに申請し取得。農福連携の取組を国内外に発信していくために、自社商品のみならず、全国の農福連携産品を取り扱うECサイトを構築。また、八天堂ファームブランドを活用した全国の農福連携に取り組む生産者と連携した商品開発を開始。日本全国の農福連携の取組そのものの向上を目指している。
- 生活困窮者、障害者等にやりがいを持って働ける場を提供するだけでなく、経済的な自立支援へつなげていくために、農福連携により生産した作物を加工することで付加価値をつけ、通常の流通経路ではない新たなマーケットで販売を実践している。

体制図



取組の成果

- 従事した生活困窮者 1名→4名
- 収穫したぶどうの房数 4,000房→13,000房
- ぶどう原体売上高前年比 3倍
- 対象者のコミュニティ拡大（引きこもり→地域サロンへの参画）
- 宗越福祉会の自主事業であった取り組みが、収入確保につながった
- 宗越福祉会へ生活困窮者支援の問い合わせが、約2倍に増加
- 地元住民の仕事創出（5名）

所在地 ▶ 広島県竹原市宮浦3丁目31-7

連絡先 ▶ TEL:0848-62-2645 E-mail:y_hayashi@hattendofarm.co.jp

ウェブサイト ▶ https://hattendo.jp/hattendo_grape/

【取組のプロセス】

令和2年

竹原市で後継者が不在の圃場が増加

竹原市における生活困窮者からの相談が増加

きっかけ

県立広島大学大学院経営管理研究科（HBMS）にて八天堂と宗越福祉会の担当者が出会い、農福連携を取り組む決意

ぶどう園との出会い

- 農福連携を実施するために空いている圃場を竹原市商工振興課に問合せしたところ、前オーナーが急逝し遊休耕作地となっていた圃場を引き継ぐ。
- 社会福祉法人宗越福祉会と農福連携についての取組を開始。



引き継いだ農園の当時の風景

令和3年

鳥獣被害防止総合対策交付金（鳥獣被害防止総合支援事業）を申請

農福連携の開始

- 農研機構で30年ぶどう栽培に携わった方が当農園に技術指導者として従事。
- 圃場全体の60%にあたるぶどうが猪等に被害を受けたことで令和3年度に鳥獣被害防止総合対策交付金（鳥獣被害防止総合支援事業）を竹原市をとおして申請。



中国新聞で取り上げられた記事

令和4年

小学校跡地の利活用が出来ていない実態を行政と協議

商工農福連携のスタート

- マーケティング活動の一環として農福連携で収穫したシャインマスカットを用いたくりむパンをクラウドファンディング（Makuake）をとおして新商品の露出及び顧客からの情報収集を行った。
- ノウフクJAS取得後、ぶどうの原体を地元大手スーパーにて販売。



クラウドファンディング（Makuake）トップページ

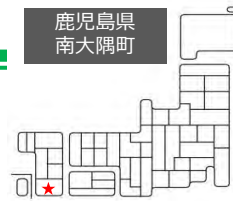
今後の展望

商工農福連携プラットフォームの構築

- 全国の農福連携事業者と連携し、加工、販売のお手伝いを担う。
- 学校跡地を利活用したソーシャルファーム設置のお手伝いと販売代行。



八天堂ECサイトの概念図



○ 農業の労働力不足、福祉の販売力強化や障害者の低工賃という課題を解消するため、大隅地域で農福連携を実践している団体を結びつける大隅地域のノウフクプラットフォームとして令和3年に設立し、活動を開始した。

基本情報

- 所在地：鹿児島県南大隅町
- 団体名：大隅半島ノウフクコンソーシアム
- 選定表彰：－
- 主力商品：－
- イベント：－



フードロス対策& 農福連携「小さいプロジェクト」

取組の概要

- 令和3年度は、会員各々の取組における課題・情報を共有し相互連携・協力のもと、現取組の深化や拡大に向けた活動を外部専門家や支援機関の協力を得て実施。
- 令和4年度は、会員事業所及び支援機関、行政、アドバイザーと連携を図りながら、各種研修会や先進事例調査を行う一方、新たな取組としてノウフクJAS取得に向けた活動などを通じて農産物の付加価値向上・販売力強化に取り組むほか、コンソ内での共同栽培やお試しノウフク、マッチング活動等をおこなっている。



共同農場の試験的な運営

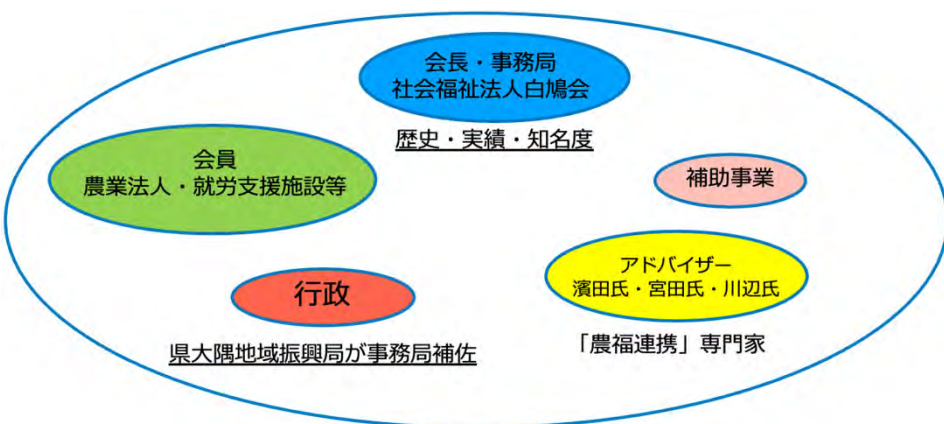


ノウフクJAS研修会



じゃがいもノウフク【過疎地援農】

体制図



取組の成果

- お試しノウフクや共同農場の試験的な運営により、障害者の方だけではなく生活困窮者等にも農業をはじめめるきっかけづくりや、担い手不足の過疎地への援農、農福連携による就労の機会を創出できた。
- 会員間で新たに施設外就労契約が結ばれたり、会員同士のビジネスも生まれ、地域の農林水産業の維持・発展が図られている。
- ノウフクJAS取得に向けて3団体が検討を開始。
- 廃棄されている「小さいも」をコンソーシアム全体で収穫し販売するフードロスノウフクの実施により福祉事業所の選択肢が増え、小さいもを使った販路拡大、子ども食堂などにも活用されるなど多様な繋がりを創出できた。

所在地 ▶ 鹿児島県肝属郡錦江町神川-3306-4 2階図書室（事務局）

連絡先 ▶ TEL:080-5257-3091 E-mail:nouhuku.tagayasu@gmail.com

ウェブサイト ▶ -

【取組のプロセス】

事業所の利用者や担当者の高齢化、地域の働き手の減少、急激な荒廃農地の増加、地域活力の低下

プラットフォーム
設立提案

～令和2年

令和2年10月

令和3年2月

令和3年5月

今後の
展望

県単ポストコロナ
農業生産体制革新
プログラム事業業
の活用

中山間地農業ル
ネッサンス推進事
業の活用（令和4
年）

きっかけ

○令和2年10月、県大隅地域振興局担当者と福祉施設職員による、「大隅半島農福連携プラットフォーム設立構想」の提案。賛同した現コンソーシアムの役員はじめ関係機関が連携し、議論検討、課題共有を開始。

農福連携の実践者同士のつながりを創出したい!!

- 大隅地域で農福連携に取り組んでいる事業所等は、それぞれの事業所の取組は既知であったものの、点的な取組が多く、各事業所が抱える課題などを共有する状況にはなかった。
- それぞれの事業所が抱える課題や将来に対する考え方は、農福連携の枠組みに止まらず、地域をどのように振興していくかという広範なものであった。
- （社福）白鳩会がノウフクアワード2020でグランプリ獲得し大隅半島に注目が集まる。

広範な地域課題解決のための多様な連携を!!

- 「大隅半島農福連携プラットフォーム設立構想」に賛同する仲間づくりと補助金申請書類の作成を開始。農業サイド、福祉サイド双方が持つ人的ネットワークを最大限活用し、15事業所が参画（現在は農業法人6社、福祉事業所9法人、3団体、6地方公共団体、アドバイザー3名で運営している）。

大隅半島ノウフクコンソーシアムを設立、本格活動開始

- 令和3年5月に設立総会を開催し、その後、役員会の定期開催、優良事例共有会、大隅半島における課題共有WS、ノウフクJAS研修会、経営に活かすGAP研修会、ブランディング・マーケティング研修会、先進事例調査、お試しノウフク、請負工賃の標準工賃策定検討等を行う。
- 令和4年度は、引き続き①農福連携に関する研修・先進事例調査研修、②ノウフクJAS取得支援及びノウフク製品のブランディング、③農福連携新規取組の掘り起こし・マッチング・取組支援、④会員事業所による共同栽培農場の運営、⑤地域における請負作業標準工賃の策定を重点取組事項として取り組んでいる。

～誰一人取り残さない大隅半島の課題解決プラットフォームに！～

- 大隅半島の農福連携推進はもちろん、会員各社の課題解決を図る一方、新たに農福連携に取り組みたい事業者へのサポート等をおこなうことで、大隅半島の農業振興にも寄与していく。
- 大隅半島の課題は農業と福祉以外にも多く存在する。これらの地域課題の中にも、農福連携を基軸にすることによって解決できる可能性が広がる。



行政・JA・地元農家との打合せ



令和3年、5月設立総会後の記念撮影



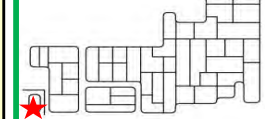
令和4年度も活動スタート



実践を学ぶ関西方面への視察研修



小さいプロジェクトのフライヤー



○水耕栽培による葉物野菜の通年栽培を通し、離島における野菜の安定生産体制の確立に加え、障害者の安定雇用を実現。誰もが安心して暮らせる地域社会の構築を目指す。

基本情報

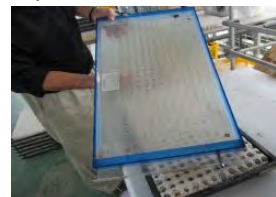
- 所在地：沖縄県宮古島市
- 団体名：社会福祉法人 みやこ福祉会
- 選定表彰：
 - ・平成30年障害者雇用優良事業所
(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構
理事長 努力賞
 - ・令和元年沖縄総合事務局ディスカバー
農山漁村の宝選定
- 主力商品：
 - 葉物野菜（サラダほうれんそう 等）、
メロン、地元野菜を活用したビュッ
フェレストラン 等

取組の概要

- 夏場の暑さの影響による減収時、また荒天による船の欠航時等は、島内の葉物野菜が不足していたが、就労継続支援A型事業所「野菜ランドみやこ」での葉物野菜の安定生産体制を構築したことで、常時安定価格で入手できる野菜として地域の食のニーズに応え、障害者の安定雇用も実現。
- 作業工程ごとに視覚的に理解できる写真パネルを利用したり、誰でも簡単に作業できる道具を活用する等、障害のある方が安全に効率よく作業できるよう工夫。
- 規格外の野菜は、グループ内のB型事業所「レストラン太平山」で食材として提供。就労訓練の様子が見えるようにし、地域交流や啓発の場として活用。
- 大玉トマトを栽培していたB型事業所では、コロナ禍での需要減少を踏まえ、令和2年から贈答用としての需要もあり付加価値の高いメロン栽培に切り替えて栽培を開始。



作業効率・安全性を考慮した作業レール 作業性を工夫した播種パネル



レストラン太平山のみなさん



メロンの栽培状況

体制図

社会福祉法人
みやこ福祉会

みやこ学園（就労継続支援B型）

室内、園芸、出向、メロン

アダナス（就労継続支援B型）

パン工房、レストラン

野菜ランドみやこ（就労継続支援A型）

葉物野菜



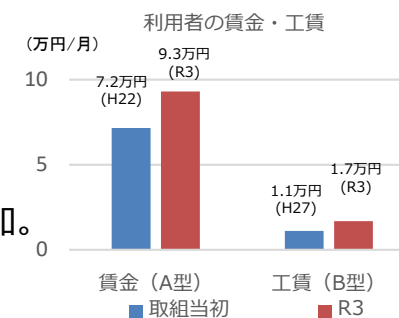
葉物野菜の栽培状況



アダナス外観
(レストラン、パン工房)

取組の成果

- LED照明やソーラーパネル導入による低コスト栽培により収益を伸ばし、全国平均を上回る賃金・工賃を実現。
- 農業に関わる障害者数は、取組当初の18人(平成22年)から23人(令和3年)に増加。
- 様々な団体の視察を受け入れる等、沖縄県内での農福連携の広がりに貢献。



所在地 ▶ 沖縄県宮古島市平良字下里3107番地243

連絡先 ▶ TEL : 0980-73-7770 E-mail : miya-gaku@cronos.ocn.ne.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.miyakofukushikai.jp/>

【取組のプロセス】

平成13年

島内には働く場や入所施設が乏しく、障害者が在宅を強いられている状況

福祉的就労から一般就労への移行に結びつけるため、A型事業所の設置が急務

島内で常時手に入る新鮮な野菜へのニーズ

社会福祉施設等施設整備費(厚労省)、障害者作業施設設置等助成金(JEED)を活用し、野菜ランドみやこ等を開所

福祉的就労の工賃アップの必要性

平成22年

社会福祉施設等施設整備費(厚労省)を活用し、アダナス施設を整備

農水省の農山漁村振興交付金(農福連携対策)を活用し、育苗施設のLED照明等を整備

平成30年

令和2年

今後の展望

きっかけ

- 島内で暮らす障害者の働く場の確保と地域ニーズに応えるため、周年栽培可能な野菜の生産を開始。

障害者の地域での就労を可能にし、地域での生活を支援

- 平成13年、島内での養護学校卒業後の就労が難しい中、障害者の働く場の確保のため、社会福祉法人として発足、島内初の知的障害者通所助産施設「みやこ学園」を開園。
- 在宅障害者や保護者からのニーズに応えるため、平成16年に分場アダナスを開所。

「野菜ランドみやこ」を開設、葉物野菜の周年栽培を実現

- 作業能力はあるものの一般企業に就労出来ない方を雇用する就労継続支援A型事業所の設置運営が急務であると考え、平成22年に「野菜ランドみやこ」を立ち上げた。
- 当初は、宮古島の気候を活かした農業を検討していたが、作業時期の偏りや他の農家との競合を考慮し、葉物野菜やトマトの養液栽培による周年栽培を実現。
- 平成27年には、福祉的就労の工賃アップのため、個々の能力が十分発揮できるよう構造化された作業環境と採算性の高い栽培システム(ポットファーム)を整備した「トマトランドみやこ」(B型事業所)を設立、大玉トマトを栽培し県内大手スーパーへ出荷。

「レストラン太平山」オープン、地域の方との交流の場を提供

- 平成30年、地域や法人で生産している野菜を食材とした料理を提供する「ビュッフェレストラン太平山」(B型事業所)をオープン。接客員と客の関係で地域交流の場を生み出すほか、普段障害者の方と触れあう機会のない地域住民の障害への理解が深まった。

コロナ禍の需要の変化を受けメロン栽培を開始、ブランド化を目指す

- 令和2年、トマトランドみやこを「メロンランドみやこ」に変更。コロナ禍の影響で出荷が滞っているトマトに代わり、贈答品としての需要が期待できるメロン栽培を開始。
- 法人の設立から令和4年で21年を迎え、事業所は6カ所に利用者は100名に拡大。農業に携わる障害者数も、当初の18人(平成22年)から23人(令和3年)に増加。
- 低コスト栽培などの工夫により収益を伸ばし、県平均を上回る賃金・工賃を実現。

障害者のニーズを受け止め、日本一住みやすい宮古島を目指す

- 障害をもつ方やその保護者が安心して住める地域社会の構築のため、本人の「こうしたい」「こうありたい」をニーズと受け止め、目に見える形で地域の環境を整備していく。
- 「この島で生まれてよかった」と実感できるように地域全体と協力して障害者を支援し、小さな宮古島が日本一住みやすい島となるよう、引き続き取り組んでいく。



野菜ランドみやこのみなさん



収穫作業の様子



苗テラス(育苗施設)



メロンランドみやこのみなさん